

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌



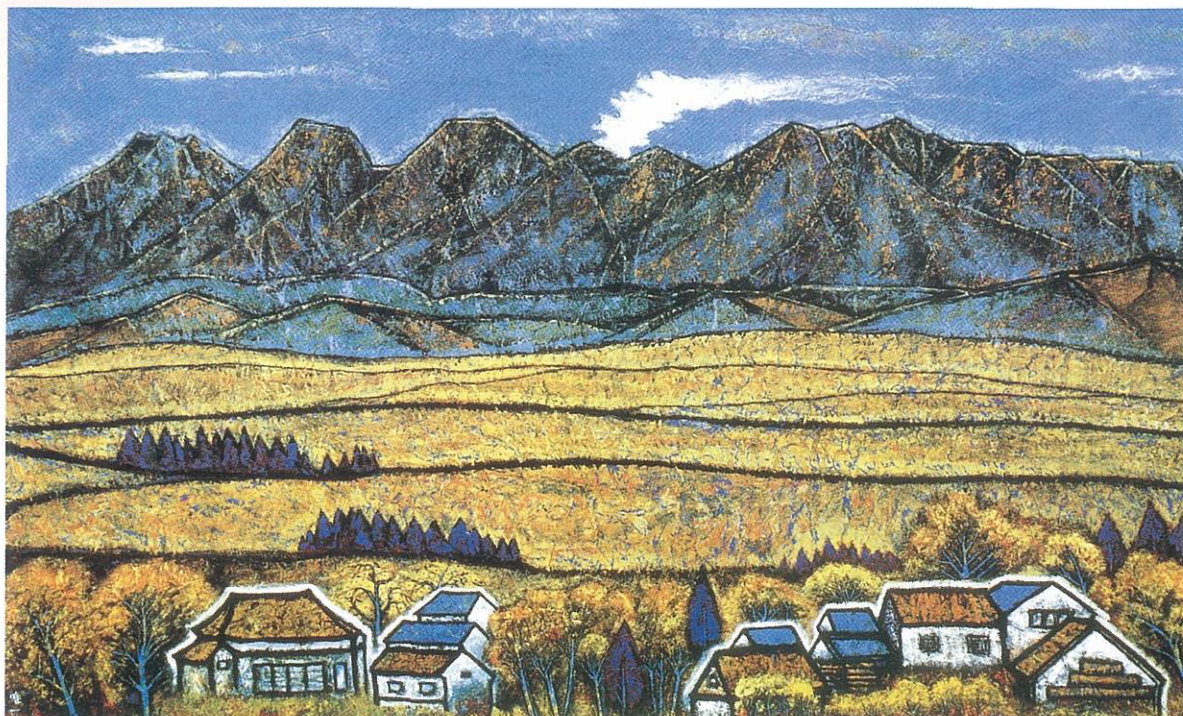
KEIWA

COLLEGE REPORT

第 32 号

OCTOBER 2002

発行／敬和学園大学広報委員会



CLOSE UP

年齢を重ねてから見つけた「人生」

ジョイ・ウィリアムズ

学生対談「異文化での発見」

短期留学に参加して／卒業生は今

敬和ボランティア・デイ報告

「海外旅行・留学の英語」の講義を受けて／教職課程を振り返って

サークル紹介「イングリッシュ・クッキング・サークル」

教員紹介「メアリー・ヒューズ先生 トライアスロンに挑戦」

インターンシップに参加して／OB・OGとの就職懇談会報告

2003年度入試の方針／スポーツ大会報告

敬和祭のご案内／英語科リフレッシュ・セミナーのご案内

2002



オープンキャンパスが7月20日と9月21日に開催され、両日ともに、多数の参加者を得て、盛況のうちに終了しました。オープンキャンパスは、対話やコミュニケーションを重視する本学の教育を体感してもらう格好の機会になりました。

体験授業の参加、ゼミ授業の見学、教職課程の紹介、サークル活動の実体験、英会話の部屋、模擬面接、キャンパスツアー等、盛りだくさんの内容に参加者から、多いに満足した、との声が多数寄せられています。

もくじ

年齢を重ねてから見つけた「人生」 ジョイ・ウィリアムズ ……	1
学生対談「異文化での発見」 ……	4
短期留学に参加して ……	6
卒業生は今「ALTに教えられた国際交流」 ……	6
敬和ボランティア・デイ報告 ……	7
「海外旅行・留学の英語」の講義を受けて ……	8
教職課程を振り返って ……	8
イングリッシュ・クッキング・サークルの紹介 ……	9
教員紹介（メアリー・ヒューズ先生） ……	9

インターンシップに参加して ……	10
OB・OGとの就職懇談会報告 ……	10
2003年度入試の方針 ……	11
スポーツ大会報告 ……	11
寄付者ご芳名 ……	11
敬和祭のご案内 ……	12
英語科リフレッシュ・セミナーのご案内 ……	12
学事予告 ……	12
キャンパス日誌 ……	13

<表紙> 安藤唯一「里、阿蘇の秋」
(敬和学園大学所蔵)
(安藤司文 本学教授 お父上 日曜画家 画集「表象を描く」から)

年齢を重ねてから見つけた「人生」

助教授 ジョイ・ウィリアムズ



「あなたの夢は何ですか」と尋ねると、私の教え子の多くは「教師になりたい」とか「留學したい」とか「公務員志望です」とか即座に答えることが出来ます。しかし、中には、このようなハッキリした答えを持たない学生もいるのです。私も昔はどうしたらいいのか分からなくて困っていたことがあります。私も、大学生だった頃、夢は何かと聞かれて、どんなふうに答えたらいいのか、よく分かりませんでした。良い答えを思いつかなかったのです。このことは、卒業が近づくとつれ、悩みになりました。

いま振り返って考えると、その答えというのは、自信を持った人間になることだったの

でしょう。わたし、若い頃は、あんまり自信がなかったんです、自分に。高校、大学と、私って「目立たない子」だなあ、と感じていました。ほんとに可哀相なくらい恥ずかしがり屋だったんです。仲の良い友達は何人かいましたが、授業でも学校行事でも私は基本的に控え目で、人前でもあまりしゃべらないタイプでした。授業で当てられると、どうしたら良いか分からなくなってしまうのです。自分で発言するっていうのが、すごく難しかったです。課外活動にもいろいろ加わりたかったのですが、「一緒にやっても良い？」なんて言う勇氣は、心のどこを絞ってみても出てこなかったんです。断られるのが怖かったのです。他の子たちはみんな自信たっぷり、自分の意思をはっきり主張して、学校行事にも積極的で、そして、はっきりした目標や「夢」を持っていて、すごく羨ましく思っていました。

そんなわけで、高校・大学時代は私の人生で一番幸福だった時期ではありません。すばらしい思い出ばかりの日々ではなかった——。今から数年前、高校を卒業して二十五年近く経って、高校の同窓会に参加しました。むかしの級友たちに「新しい私」を見てもらうことが出来る、ちょっと意気込んでいま

した——自信に満ちた、生き生きした、話好きで、人生の勝者っていう私を見てもらう、と。ところが、残念ながら、同窓会の出席者は私が良く知っていた人達ではありませんでした。ほとんどの人は私のことを忘れてしまっていたのでした。同窓会から帰ってきた私は、高校の頃の私と同じように、恥ずかしがり屋でちょっと不安そうな、「目立たない子」の気分を味わっていました。

高校卒業が間近になって大学を選ぶころになっても、私ははっきりした目標や野心はありませんでした。ただ私の両親は、私が高校卒業後も勉強を続けるのだらうと、ずっと考えていたのです。子供の頃、両親は私に「大学へ行くためのお金を貯め始めたよ」と言ってくれました。それで、このことに関しては、全然選択の余地はないのだと思いました。だけれど問題は、自分が勉強したいことが何なのか、そのためにこの大学へ行けば良いのか、ということについて、全然イメージが浮かばなかったことでした。両親は、ペンシルバニア州にある小さな教養系大学（liberal arts college）で英文学を専攻したらどうかと行ってくれました。彼らは、英文学の学位はどんな仕事につくにも役に立つだらうし、小さな大学のほうが私には向いているだらうと思っ

たのでした。他に自分でやりたいことがないんだから、まあいいか、と、両親の言う事に従うことにしました。

私の両親の考えは、ある程度は当たっていました。私には英文学や米文学の勉強は楽しかったし、寮生活だったので、何人かとても良い友達を作りました。でも、私はまだすく恥ずかしがり屋で、勉強についても全ての科目でそうそう熱心というわけではありませんでした。他の大学に転学しようかと考えながら、ずいぶんと時間を過ごしました。でも、やっぱりどこへ行きたいのか分からなかったし、転学する勇氣も実際のところありませんでした。そして、今でこそ教師という仕事が好きですが、その頃は英文学を勉強した人間の進路として、英語教師になるのは自分の人生の目標ではなかったのです。まあ、あとになって、様々な事情から、偶然、英語教師になりました。今となっては、私が恥ずかしがり屋だったといってもなかなか信じてもらえませんし、若い頃どうしてあんなに不安定な性格だったのか、私にはいまだによく分かりません。とにかく、今、この年になって、若い頃に恥ずかしがり屋で夢を持たない人間だったとしても、そんなに悪くはないんじゃないの、と思えるようになりました。幸いにも、年齢を重ねると、他の人に「あなたの夢は何？」と尋ねられることはなくなりまうから。

象とは違いますが——例えば、料理や庭仕事、生け花や音楽、散歩、といったものです。手を使って作業をすることが好きだ、ということも、年をとってから発見したことです。（父方の祖父は大工で、その丈夫で力強い手で作業をすることを楽しみとしていました。その遺伝でしょうが。）このような学問と関係ない興味は、もちろん大学教師としての仕事とは関係ないのですが、私の人生にバランス感覚と創造的なことをやっているという感覚を与えてくれるものです。こういう興味があるのやり方にまで影響してきます。

私は一日を朝のお散歩で始めるようにしています。（散歩は音楽を聴きながらで、そうすると歩くのが速くなるんです。）こういう日は、朝の五時半くらいに起きて、そつと家を抜け出します。（その前に我が家の三匹の猫に朝ご飯をあげますけど。そうしないと、あの子達は騒ぎ出すのです。）まだ誰も起きていない住宅地を抜けて田んぼを通って、まだ静かな小学校から人気のない小さな神社のわきを歩いて、墓場や閑静な寺へ。季節によって景色は変わります。初春の鮮やかな緑から、秋から冬にかけて金色へと色を変える田園風景。そこでは農家の人々が働いていて、いつも笑顔で挨拶。すばらしい一日の始め方です。頭がすっきりして、その日の計画を立てるのに役に立ちます。

もうひとつ、「夢中になれるもの」を挙げれば、花を生けること。これはもう十五年やっています。生け花の先生になるうと思っっているわけはありません。花を弄ぶのが好きで、家に生けた花を置いておくのが好きなのです。生け花をすると季節の変わり目にも気がつくし、自然と繋がっているような気が



します。何度も引越したもので、生け花の先生も何人か変わりました。先生によって花の生け方も違いますし、教え方や生け花の考え方も違います。どの先生から教わったことも、よい勉強でした。先生のところへやってくる他の生徒さん（女性たち）とも知り合いになりました。いま通っている週に一度の生け花教室は晩の七時からで、田舎のことですから、先生は花を買って来るのではなく、ご自分の庭で取れた季節のお花を使います。他の生徒さんの中には、一日、畑で働いてから来ている人もいます。そんな長時間労働のあとに生け花を習いに来る元気があんなに、すごいなあ、と思います。茎をハサミで切ったり整えたりしていると、我々の会話の話題はどうしても地元の話とか、今年の作物とか、野菜の漬け方とかになります。十時ごろに生け花教室が終わると、この地域についてのいろんな面白い情報を持ち帰るといってわけですね。

料理にも夢中になります——ま、食べることも、ですけど。子供の頃は主婦のやるような事には全然興味がなかったのですが、大学を卒業して一人暮らしをして、作らざるをえない状況になりました。でも、年を経るにつれ、料理が好きになり、新しいレシピを作ってみ



たりしました。美味しいものを食べると気分が良いだけではなく、料理すること自体が創造的なプロセスで、大学での仕事のあとで本来の自分を取り戻せる感じでした。この阿賀北の地に引越してきて、料理も少し変わりました。聖籠町では友達や近所の人が菜園をやっている、春や夏には配って歩くほど野菜があるようです。大学から帰ってくると、玄関の前に、新鮮なトマトやキュウリ、ジャガイモ、その他の「おすそわけ」が置いてあったりします。スーパーで売っている精気を抜かれたような野菜とは違って、香りも良く栄養満点です。こういうお野菜をどう料理に使うかなあと考えるのも、楽しいと同時に、ちょっとした頭の体操です。料理本をたくさん見て、我が家版「今日の野菜料理」のレシピを貰った野菜に合わせて考えます。ズッキーニとナスを完熟トマトで包んでみたり、ジャガイモをカレー煮にしてみたり、冷たいキュウリのスープにミント風味を加えてみたり。とりあえず今のところ、我が家版レシピはみんな「食用に適するもの」です。

ヨーロッパやアメリカでは、パンは主食です。日本ではおいしい全麦パンやライ麦パンがなかなかないので、パンは自分で焼きます。

パン焼き機を持ってまして、なかなか便利で、忙しいときは時間の節約にもなります。でも時間があるときは、自分の手でパンを作るのが楽しいですね。なめらかでやわらかいパン生地を手で練っていると、癒されます。採点前の学生のレポートが山のようにあるときなど、気分転換にもなります。

もう一つ「夢中になれるもの」を挙げれば、日本の昔話です。日本にずいぶん長く住んできましたから、日本の昔話や民間信仰に興味があります。日本ではどこへ行っても、碑とか、祠とか、自然の岩などが聖なるものとして奉られ、長い歴史を持ち、しばしば昔話や伝説と繋がっています。一年を通して行われる様々な伝統的儀式にも興味があります。この新潟県ではこのような習慣は人々の生活にとってまだまだ重要なものです。しかし、多くの日本の若者が自分の文化的背景を知らなかったり興味さえなかったりするのが不思議です。日本へ来る外国人が日本についての質問をしても、日本の若者はお手上げということになります。私は英語教師ですから、学生に自分の文化に興味を持ち、英語でそういう文化的側面を説明できるように促していきたいです。



年を重ねるにつれ、ま、要するに私はいろいろなことに手を出すタイプの人なのね、と気がついた次第です。どの「夢中になれること」についても、その「専門家」になろうとはぜんぜん思っていない。私は自分のことを熱狂的なフィットネス主義者だとは思いません。天気が悪かったり気が乗らなかったりするときには、散歩には出ません。たしかに花は生けますが、生け花の先生になろうとはしていません。生け花の先生になるための特別クラスを受講するような時間も、そこまでの興味も、ないです。料理の先生になりたいとか、日本の民話の研究者になりたいとは、それこそ夢にも思いません。言ってみれば、「多芸は無芸」というわけです。しかし、多くの「夢中になれること」を持つことで、満足感を得られます。おかげで、どうしても達成したい「夢」があるわけではないのですが、人生、退屈なんてことはありません。やるべきことがある、という感じなのです。

今日の世界は、一世代前、二世代前と比べると、ずっと複雑で、職業選択やライフスタイルの選択もずっと多様になっています。多くの若者にとって、このような選択をすること、そして「夢」を持つことは、かなり厄介なことかもしれません。私にとってそうだったように、です。今日の世界では、狭く限定された夢を持つよりも、多くの様々な「夢中になれるもの」を持つていることのほうが、より重要なものかもしれません。世界はいつも変化しているので、自分が「夢中になれること」を探していくことは、自己発見と自己理解の重要な一部分です。それは、一生続く「冒険」なのです。

学生対談 「異文化での発見」

地球社会時代といわれる現代に生きている私たちは、様々な場面で、自分とは「違う」文化を持った人々と出会います。それは、わくわくする楽しい冒険であると同時に、自分自身を揺さぶられ、それまでの枠を突き破られる「ショック」・葛藤でもあります。そこで、留学を体験した本学の学生四人のみなさんに、変わりつつある「異文化」と「自文化」と「自分自身」について、お話をうかがいました。

有田先生 では、自己紹介をお願いします。

井上将 (イノウエ・シヨウ) 国際文化学科の四年です。二〇〇一年にアメリカのシアトルに留学しました。日本でスクイ生活を送ってきたので、自分に一発カツを入れるためでした。日本人との接触はなかったから、海外で一人ではできないことを経験し、それが今の自分を作ったと思っています。

間瀬文絵 (マゼ・フミエ) 英語英米文学科四年です。二〇〇一年二月から五週間、大学の語学留学制度を利用して、イギリスのポーンマスに留学し、ホームステイをしました。姜承賢 (カン・スンヒョン) ソウル出身です。韓国の大学で日本語と日本文学を専攻しました。韓国では大学を卒業して二、三年後に女性は結婚するのが普通ですが、私は海外経験によって視野を広げたいと思います。

呂棒棒 (ロ・ボウボウ) 国際文化学科一年です。二〇〇〇年十月に中国のハルビンから日本へ来ました。日本に来る前は「あいいうえお」も知らなかったんです。日本の経済発展について、学びたいと思いました。

●アメリカ・イギリスで思ったこと

松崎先生 海外体験で自分が変わったたり、強く感じたりしたことがありますか。

井上 アメリカで異文化を経験することで、自分のなかの固定観念が崩れたと思います。そして、「なんだかバリバリの典型的な日本人だなー、オレ」って感じましたね。



嫌いなんですけどね。個性がないな、と思った。それで、これからの日本に必要なのは、個性的な人材だなーって思いました。

間瀬 ハウスメイトがブラジル人、コロンビア人、トルクメニスタン人、ノルウェー人など6人もいてびっくりしました。でも、この人たちにはじめ「また日本人が来た」と言われました。団体で来ていた日本人学生がたくさんいたんです。あれだけ日本人がいるならしよがないなと思いましたけど、やっぱり

りちょっと、ムツとしたかな。

●日本に来て思ったこと

有田先生 姜さんや呂さんはどうですか。

姜 日本人は、実際にやさしくて親切だと思いました。道を聞くと、目的地まで連れて行ってくれる日本人も大勢います。でも、あまりにも細かいところまで気を使い過ぎるんじゃないかと思うときもあります。アルバイト先の料理店では、賞味期限が一時間でも過ぎたものは、すべて廃棄してしまっつんです。衛生的ですごくいいと思う反面、そこまできっちりしなくても、とも思います。

呂 僕は中国いる時は、日本人は冷たくて近寄りにくい人たちだと思っていました。でも、日本に来て日本人が親切なので驚きました。ノートを貸してくれたり、わからないところを教えてくれたり。ただ、アルバイトについては、困っています。求人広告には「だれでもできる簡単な仕事」と書いてあるのに、僕が外国人であることがわかると、採用してくれないんです。そういうとき「僕の日本語は下手なんだな」とがっかりするのです。



間瀬 ええ、私がファーストフードのお店でバイトしていた時、外国人の人が応募してくると、店長は面接もしないで「外国人はだめ」と断っていました。変だな、と思いました。

呂 それから、ワリカンの習慣は中国では全然ないんです。それははじめ驚きました。中国ではみんなでご飯を食べたりお酒を飲んだりするとき、ワリカンにすればちょっとおかしいと思われるんです。



学生対談

姜 韓国でも、ワリカンはほとんどしませんがね。目上の人とか、誰か一人がみんなの分までどかつと払いますね。

有田先生 日本人は結構一円まできっちりやる時もある。

松崎先生 電卓とか持つちゃって(笑)。

●敬語について

井上 ワリカンについても言えるかもしれないけど、やはり日本は「カタイ」と思いますがね。たとえば、日本語の敬語です。敬語を使うと、相手や自分の年齢とか社会的な地位とか、いつも意識しなければならぬ。そういったことに関係なく、人間と人間として話したい。アメリカには敬語なんかないから、自由でした。日本語の堅苦しさより、英語のフランクさに心地よさを感じますね。

呂 中国では敬語はほとんどありませんよ。

姜 韓国語は、日本語以上に敬語の使い方がはつきりしています。相手の人への呼びかけ方が、目上の人と目下の人とで大きく違います。だから、日本でアルバイト先の高校生に「姜さん、元気？」などと言われて、前は違和感がありました。でも、今は慣れました。

有田先生 敬語と関連して、日本語教育で「あなた」という言葉が問題になることがあるんだけど、やはり私も松崎先生に「あなた」とは言えません。年齢や立場を意識しますね。

松崎先生 ええ、私も北垣学長に「あなた」は無理。それに、たとえ英語だけのパーティーの席でも「ムネハル」とは呼べませんね。

●異文化間の交友関係

有田先生 違う文化を持つ人と友達になる時にどんなことが大切だと思いませんか？



間瀬



間瀬

私はイギリスで、とりあえずクラスメートに朝と帰るときには必ず挨拶をしようと心掛けていました。そうしたら、だんだん友達が増えて、またその人の友達を紹介してくれたりして、交友の輪が広がっていききました。今でもEメールでのやり取りが続いています。

井上 僕もいろんな国籍の友達ができました。そのときに大切なのは、やはり相手を尊重するということだと思います。習慣も考え方も違うから。自分が外国に行った時、とりあえずはその国の習慣ややり方に合わせてみる、順応してみるのが、異文化の友達を作るには、まず必要かなと思います。

有田先生 つまり、「郷に入つては郷に従え」が正しいということかな。

井上 ええ、とりあえずのベースを作るまでは、やはり必要なんじゃないですか。その基本を作ってから、自分のオリジナリティーを出していけば良いんじゃないかな。

姜 私には実は、日本人の友達はその間に多くはいません。知り合いはたくさんいますが友達には多くない。ただ、一人の日本人の女の子とは本当に良い友達です。彼女は控え目な性格の人ですが、実は彼女のほうから私に電話をくれ、私に対して関心があるということを示してくれたんです。私は彼女とは正反対の性格で、そういうところが面白いと思つて、彼女は私に興味を持ってくれたんだと思

います。私は、一番大事なことは、自分自身の心を開くことだと思います。日本人は静かで自分のことをなかなか話したがらないという固定観念があつたんですが、彼女の態度に驚くと同時に、とてもうれしく感じました。

●体験を、将来につなげたい

有田先生 では、今後の進み方について聞かせてください。

呂 僕はまだ入学したばかりだし、将来については決めていないけど、中国へ帰つて、できれば日本語の力を生かせる職場で働きたいと思つています。

間瀬 私もまだはつきり決めていないし、やりたいことがたくさんあります。教職もつています。海外にも行きたいです。でも、今度海外に行くなら、英語を、言葉を勉強するためではなく、何か、別の何かがしたいと思つています。それが何かはわからないけど、国際交流に関係した仕事かもしれない。ボランティアやNGOの活動にも興味があります。

井上 現在TOEFLの受験準備中です。アメリカで勉強を続けて、できれば向こうで仕事を見つけない。英語圏で日本語を教えることにも興味があります。

姜 私は、ワールドカップでのボランティアをやつていろいろな国の方たちと会つたのですが、その時に痛切に感じたのは、英語力が必要だということでした。私も近いうちに英語圏の国へ行つて、英語を勉強したいと思つています。でも、将来的には、良い主婦、良いお母さんになりたいんです。だから、それまでできる限り自分を磨きたいんです。



姜

ノースウエスタン大学への 短期留学に参加して

英語英米文学科二年 高倉 幸子

前々からアメリカに行きたいという気持ちを持っていましたが、なかなか行くとなるときっかけがつかめず、大学に入って今回のようなよい機会に恵まれました。行く前は、初めての海外だったにもかかわらず、正直、不安よりも期待のほうが勝っていました。

アメリカの国内線に乗る前に時間があつたので飲み物でも買おうと自動販売機を探したのですが見つけれず、店で注文したのですが発音が悪いせいでなかなか通じず、これからの事に少し不安を覚えました。それでも、留学先でちゃんと英語を学べたので、今では良い思い出となっています。



学校では、発音、イデオム、アメリカ史を学び、TOEFLの勉強も少ししました。私はイデオムが苦手だったので、現地（外国語指導助手）の学生がチューターとして勉強の助けをしてくれました。

ので克服することができました。また、日本の大学と違い、毎日の宿題が大変でした。宿題もチューターさん達にしっかりと聞いて助けてもらえばよかったですと後悔しています。しかし、いつも勉強ばかりしていたわけではなく、ピクニックに行ったりキャンプをしたり映画を観たりと毎日、中身のつまった生活をしていました。

語学力は、チューターさん達と仲良くなつて英語で話しているうちにだんだんと耳も慣れ、発音も正確になってきたと思います。

アメリカの大学の先生に英語を話す前に日本語を頭に思い浮かべるのではなく、英語を思い浮かべるようにとアドバイスを受けました。実際、話したいと思つたら、とにかく英語で何かを言ってみる、そうすると多少間違えていたとしても直してもらえるので、そこから会話が広がりました。

今回初めての留学で、語学だけでなく様々な事が学べたので、本当によい経験をしたと思つています。

卒業生は今 ALTTに教えられた「国際交流」

一九九七年度卒業生 高岡 美雪

私はこの春より県立有恒高校に勤務しています。私の学校には七月まで週に一回ALTT（外国語指導助手）が来ていました。私たちは週に一時限のチーム・ティーチングを行っていました。初めはお互いの役割がしっくりしなかったのですが、授業の前後に話し合うことで問題を解決していきました。彼女は非

常に情熱をもって授業を行っていたので、生徒にとっても好かれ、彼女の最後の授業には生徒は手紙を書いたり、一緒に写真を取ったりしました。他教科の先生方とも昼休み一緒に遊ぶお弁当を広げたり、家庭科の先生におにぎりの作り方を習ったりしていました。私たち教師や生徒たちにとって、彼女と時間を共にすることがひとつの国際交流であったように思います。

最近国際交流という言葉があらちらちらで叫ばれていますが、「国際交流」とは、その言葉の響きのように重いものではなく、外国人との小さな心の触れ合いなのではなく、彼女が気づかせてくれました。心の触れ合いを通して仲良くなり、そして仲良くなった人たちと、ずっと友達として交流していく。「さあ、国際交流活動を始めよう！」ではなく、肝心なのは同じ人間として心のつながりを大切にしていこうとしたいと思います。

彼女が帰った今も私はEメールを使って彼女と交流をしています。これからもこの小さな国際交流を続けて行きたいと思つています。



敬和ボランティア・デイ報告

七月三日(水)、恒例の敬和ボランティア・デイが開催されました。特養や自立生活支援センター、社協、障害者施設、幼稚園、保育園など、今年はその地域の十五の施設・機関にご協力をいただきました。学生百三十九人、教員も授業を休講にしたり、後から駆けつけてくれた先生を含めて二十二人が参加しました。一施設に十二〜三人。これだけの数の学生、教員にまとまってパワーを発揮してもらえると、普段できないことがいろいろできると好評でした。

大清掃に引越越しの手伝い、人形劇、歌、ダンスなどのエンターテイメント。遠足介助にパーベキュー、街でのバリアフリーチェック、などなど。今年もその一瞬一瞬に、わたしたちの固くなったものの見方が改められるチャンスが、いくつもつまっていたように思えます。ご協力いただきました皆様にあらためて深く感謝いたします。

(ボランティア委員長 永野)

ボランティアで考えたこれからの自分



英語英米文学科一年

杉崎 史央

敬和学園大学では必修科目としてすべての学生が「ボランティア論」を受講し、その中でボランティアの概念や実情を学びます。この授業の一環として、ボランティアの実習を

する日があり、基礎演習のゼミごとに教員と学生一〇名程度が集まりボランティアをします。ここでは、私の所属している松崎ゼミのボランティアの取り組みと私の感じたことを紹介したいと思います。

私たちはあやめ幼稚園というキリスト教系の幼稚園に行くことになり、準備を始めました。まずはゼミの代表者が幼稚園の方と話し合い、その中で手伝いだけでなく何か出し物をして欲しいと言われ、話し合った結果、「織姫と彦星」の劇をすることになりました。当日までの準備はほぼこの劇のことでした。

当日は三つの班に分かれ、それぞれ年少、年中、年長を担当し、子供達と遊びました。劇が終わり、昼食を食べて、子供たちが帰った後に幼稚園の掃除をしてボランティアを終了しました。

私はボランティアをするのは初めてではなかったのですが、このような幼稚園でのボランティアは初めてだったので感じるものがたくさんありました。子供と話すときは見下ろすのではなく、しゃがんで目線を合わせるといったことを学んでなるほど思ったり、一緒にゲームをして部屋の中をこちらが汗をかきほど走り回る子供たちの元気に驚いたりしました。それに子供たちがすごく好意をもってくれていたのが嬉しかったです。自分が小さかった頃、年上の人と遊ぶのが楽しかったことを思い出しました。

逆に反省したこともありました。私をすこしく気に入ってくれて、朝話しかけたときからずっと私にくっついていていた子がいたので、一人の子とずっと一緒にいるのは悪いかなと思ひ、後半その子から離れたこと。その子が傷ついてしまったのではないかと、

その時の自分の行動を反省すると共に多くの子供と接する仕事の難しさを少し体験したような気持ちになりました。

このボランティア実習は私にとって、とても素晴らしいものでした。子供たちとの交流はとても楽しいものでしたし、幼稚園の方々の手伝いをしたという充実感もありました。それらと同時に考えたのが、「仕事に就くならこのような充実感が得られるようなものがない」、「それなら自分はどういうことに充実感を感じるのか」という、これからの自分についてでした。ボランティアを通じて将来の仕事のことを考えるときが来るなんて思ってもいませんでした。

この一日は、まだ始まったばかりの私の学園生活の中で一番多くのものを感じ、また考えさせてくれた素晴らしい日となりました。



授 業

「海外旅行・留学の英語」の 講義を受けて



英語英米文学科二年
田辺 亮

私は、コンラッド・マツモト先生の授業「海外旅行・留学の英語」をとっています。この授業には、海外や留学に興味のある人が集まっています。この授業を一言で言えば、「楽しい」の一言につきます。学年は関係なくみんな楽しんでやっています。

授業では、色々なことを学んでいます。例えば、留学・海外旅行に必ず出てくるシーンを想定した二人の会話（短文ですが・）を短時間で覚えて、前に出て発表するなどしています。また、前期の課題として、四〜五人くらいの班で自分たちの行きたい国を決めて、その国の有名な建物・歴史・文化・食物・スポーツ等々、色々折り込んだ新聞を作り、みんなの前で英語で発表もしました。

私は、「書く英語」も大切だけれど、「話す英語」の方も大事だと思い、この授業を取りました。それに、留学もしてみたいと思っています。初めは、ほとんど知らない人ばかりで、ずっと友達とばかり話していました。しかし、授業を重ねることにみんなと打ち解けて話すようになりました。もちろん、Conrad先生ともです。私は、先生の授業の方針がとて大好きです。楽しみながら（遊びやゲ

ームを含めて）学ぶという感じがします。「英語は積極的に話すことから上達する」と聞いて、先生に出来るだけ自分から話すようになりました。

まだ前期が終わったばかりです。ちようど折り返しになったけれど、後期もしっかりと楽しく勉強したいと思います。

「海外旅行・留学の英語」を担当する Conrad Matsumoto先生からのメッセージ



Will you travel or study abroad? Traveling and studying abroad can be one of the most satisfying events of your life. It can also be a very frightening experience if you are not prepared. In my class, you will learn English for international communication as well as general English conversation. You will be prepared to deal with common survival situations such as asking for directions, checking into a hotel, and answering questions about Japan. English can be your passport to success!

私が大学でこれだけがんばったといえることは、教職課程です。

妙高合宿では、「イニシアティブ・ゲーム」を担当しました。合宿初日のみんなの緊張をほぐして親睦を深められるように、本を読んだり、体験した先輩や先生の意見を参考に計画を立てました。私はこの合宿で、団体行動における一人ひとりの役割の重要性を学び、責任感を養いました。

教育実習では、毎日が目まぐるしく過ぎ、教師の大変さがよくわかりました。特に、私が受け持つクラスの担任の先生が休んだ日は、私が代わりに連絡事項を伝えたり、生徒の提出物を見たりしたので、とても大変でした。また、ALT（外国語指導助手）とのチーム・ティーチングではどんな活動をするのかを英語で伝えなくてはいけなかったのです。自分のスピーキングの弱さを痛感しました。

でも、素直な生徒が多く、毎日楽しく過ごせました。三年生で聖籠中学校での学習支援ボランティアに行っていたおかげで、生徒に積極的に話し掛けることができました。学内でのチーム・ティーチングも、授業計画の参考となりました。

教職課程はとにかく課題が多く、先生方も厳しかったです。今となっては、そのおかげで自分もここまで成長できたのだと思います。本当にありがとうございました。



英語英米文学科四年
玉木 理絵子

教職課程を振り返って

イングリッシュ・クッキング・サークルの紹介 —料理を通じ、地元根ざした国際交流を

英語を使いながら、地元の食材を基にして世界の料理を作るというユニークなクッキング・サークルを本学教員と学生が立ち上げ、熱心に活動を続けています。

クッキング・サークルの発案者は、マーク・フランク先生。フランク先生は料理が趣味で自分で研究を続けてきました。サークルは、二〇〇〇年秋に開かれた敬和祭で出店をしたのをきっかけに、毎月一度、新発田市公民館の調理室を借りて開催しています。現在のメンバーは部長の鷲尾典子さん（英語英米文学科二年）を中心とする約二〇人。本学の学生や聴講生のほか、口コミで参加した社会人もいます。



地元の食材を活かして、国際的な料理に挑戦するのをモットーとし、今年八月の料理は、アメリカの豆スープや、メキシコなどで有名なフアフィータ（グリルした鶏肉などをトルティーヤに巻いて食べる料理）を地元で取れた野菜や肉をふんだんに使って、作り上げました。フランク先生がサークルのメンバーと話し合っ

て、毎回の料理のレシピ（調理法）を英語で

記載します。調理には、一、二、三時間をかけ、フランク先生とサークルのメンバーはレシピを基に「肉の火加減はもっと強いほうが良いの？」「もう少し細く切らなきゃ」など、一つひとつ確かめて、進めていきます。レシピが英語で書かれているので、「Red pepper」とはタカツメのこと？」といった英語に関するやり取りも多く、サークルのメンバーからは「英語を勉強する絶好の機会」（英語英米文学科二年の佐藤裕美さん）という声も多々あります。

英語圏の料理に親しむだけではなく、料理を通じて広い国際交流を目指しており、今年六月の会では、中国からの留学生の李蕾（リー・レイ）さん（英語英米文学科二年）がエビのチリソース炒めを手馴れた手つきで作りました。国際文化学科四年の鈴木智士さんは「李さんの中華鍋を操る姿がとても手際良かった。料理を自分で作ることも多いが、あのレベルにはかなわない」と驚き、国際文化学科二年の長谷川結美さんは「様々な国の料理に親しむことができて、世界が広がったような気がする」と話しています。

将来は自分たちで育てた野菜などを使った料理などにも挑戦するほか、新発田市や聖籠町の農家との交流会などを計画しています。フランク先生は「料理を通じてコミュニケーション作りが理想」といい、「ハンバーガーなどのファストフードが全盛の時代こそ、時間をかけて、他の人と協力して料理を作る”スローフード”が重要」と話しています。

（前嶋）

メアリー・ヒュース先生 トライアスロンに初挑戦、みごと完走！

九月二日に佐渡で開催された二〇〇二佐渡国際トライアスロン大会に本学のメアリー・ヒュース先生が参加され、国際Bタイプ（水泳二キロメートル、自転車一〇五キロメートル、ラン二一・一キロメートル）のコースをみごとに完走されました。タイムは八時間一〇分。本人は「九時間半はかかるとみていたのでこのタイムには大満足」との感想でした。

三十五度を越える猛暑の中、千五百名近い選手たちが泳ぎ、こぎ、走る姿は見物するわれわれ応援団にも大きな感動を与えてくれました。沿道の地元のお年寄りたちの応援はユーモアにあふれ、「おらたち三人で二五〇歳なんだから、あんたたちががんばりや」、「押してやろうか」などの励ましに、坂道をあえぎながら自転車をこぐ選手たちの厳しい表情も思わずほころんでいました。

疲労困憊の様子もなく、一緒に参加した人たちが友人のお祝いを受けて談笑しているレース後のメアリー先生を見て、そのタフさにまたまた驚き。こちらは炎天下の応援だけでぐったり。でも楽しい一日でした。

（松崎）



就職

社会人になるための準備

インターンシップに参加して

英語英米文学科三年 加藤 勝範

英語英米文学科三年 小泉 理恵

私は、来年の就職活動のために役立てようと思い、今回の聖籠町のインターンシップに参加しました。夏休み中で、しかも二週間という短期間でした。実習前日には、こんな短期間で自分にどんな仕事ができるのか、実習後に自分は何を得意にするのだろうか、と不安に感じていました。

実際の業務は町民会館での施設運営の補助が中心でした。特に、期間中には成人式が行われ、会場設営などの作業にも携わりました。前半の一週間はあつという間に過ぎてしまったので、後半の一週間は何かを得なければならぬと意識しながら、私は少し焦りながらも最終日まで懸命に取り組みました。

実習期間中は、事務的なことから活動的なことまで、本当に色々な仕事をさせていただきました。これらはみな、アルバイトでは体験できないような内容でした。忙しい中でも職員の方々はそれぞれに手際よく仕事をしていました。社会人としての厳しさと真剣さと同じく、接客時の優しさに溢れた姿は、心から見習うべきだと痛感しました。

今回のインターンシップは、私にとって大学生活の思い出の大きな一ページになりました。



私は、株式会社第四銀行本店におけるインターンシップに参加しました。本店ということもあり、銀行の中核業務の説明に重点が置かれ、私はとても興味深く聴くことができました。

研修内容は講義中心でしたが、節々で関連部署へ見学に行ったり、実習があったりと、とても盛りだくさんなものでした。これらは私たちが普段、銀行を利用していても体験できないものばかりでした。中でも、第四銀行だけが儲かればいいのではなく、新潟のリーディングバンクとして地域社会の発展と共に大きくなっていきたいとする姿勢は、とても印象的でした。

私はこの四日間で、今の社会に求められているものは順法精神だと思いました。これは昔からあったものですが、最近になり、再び盛んに言われるようになったものです。社会における倫理性が問われている現在、これからの企業にとって大切な指針であると認識しました。

私はインターンシップで学んだことを糧にして、これから社会に出ていくにあたり、この経験を生かしていきたいと思えます。



OB・OGとの就職懇談会

去る七月一日(水)に、「二〇〇二年度OB・OGとの就職懇談会」が開催されました。今回は母校の後輩のために、第三期生から第七期生の先輩にお忙しいお仕事調整してお越しいただきました。

はじめは就職活動のためにと面白半分で見ている在校生も、社会人としての自覚、職場におけるプロ意識、そして将来にかけられるといった体験発表を聴くうちに真剣な表情へと変わっていきました。数年しか変わらない先輩たちに、成長した大人の姿を認めた瞬間だったのでないでしょうか。

体験発表後の質疑応答ではたくさんの質問が寄せられ、九〇分間の懇談会がとても短く感じられました。新しい大学だからこそ、卒業生の活躍が直接に大学の社会評価へとつながります。そして後輩も彼らの後を追っていくこととなるでしょう。ご出席くださった先輩方に心から御礼申し上げます。これからも活躍し続けてくださるようお願いさせていただきます。(就職委員長 福王)



卒業年度	氏名	勤務先
1996	相馬 郁子	(株)ウオロク
1997	阿部 正直	新潟日産自動車(株)
1999	櫻井 淳	丸福証券(株)
2000	石井 美穂子	セコム上信越(株)
2000	丹呉 勉	(株)アークベル

偏差値よりも個性値重視へ ～二〇〇三年度入試の方針

本学の二〇〇三年度入試は、十一月に推薦入試、一月から三月に一般入試（A/B/C日程・センター試験利用）、社会人・編入学・外国人留学生（二次募集）が実施されます。AO入試はすでに六月よりスタートしており、三月までの受験が随時可能です。このAO入試の申込み者は現在も順調に伸びています。

二〇〇三年度は、人間形成に重きを置く本学の教育理念に沿った、志願者一人一人の個性や人間性を重視する入学試験を行います。AO入試では、志願者は二回の面談で、計四人の本学教員と対話を重ね、お互いを理解しあつたうえで合格が決定します。推薦入試では、面接を最重視し、多面的総合的な判定を行います。また一般入試においては、知識量、記憶力を重視する問題を削減し、志願者の創造性や生きる力、個性を生かせる問題の出題を予定しています。

本学が求める人間像は、人間とは何か、人生をいかに生きるべきか、を真剣に探求する人物です。多量で錯綜した情報が溢れる現代社会において、どんな目的を持ち、どう生きたいかをつかめずにいる人々が多数いることでしょう。本学は、そんな高校生および社会人を暖かく受け入れ、一人一人の個性や人間性を伸ばしていくための教育を実践します。入学試験は、そのための入口と位置づけられます。入学試験の詳細は、入試室（〇一二〇・二六・三六三七）までお問い合わせください。

（入試委員長 中村）

スポーツ大会が 開催されました

二〇〇二年度スポーツ大会は六月八日（土）午前九時から開催されました。本年度は土曜に授業が開講されているため、授業中は中断となりました。不利な条件にも関わらず、当日は晴天に恵まれ、学生の参加は百五十四名で、昨年度より二〇％も多い参加者数となりました。午後七時半まで熱戦が続きました。

ソフトボールは「高井組」と「バブル車」、サッカーは「FC: ABE」と「パンパース」がそれぞれ一位と二位、テニスは「C&C」が一位。室内では一位と二位の順に、バドミントンの「加藤・内山組」と「伊井・鈴木組」、バレーボールの「バリーオレンジ」と「バット」、バスケットボールの「久島クラブ」と「まれびと」、卓球の「枝並大介」と「原田寛」でした。これらのチームには一位二千元、二位一千元の商品券が各学生に賞品として授与されました。参加した教職員は学生の若い力の前に惨敗でしたが、学生と教職員が一つになれた大会となりました。

（五十嵐）

寄付者ご芳名

- | | |
|----|----------|
| 一般 | 春名 康範 |
| | 日米北宣教協力会 |
| | オレンジ会 |
| | 塩谷 真澄 |
| | 一九九二組 |
| | 石木 裕美 |
| | 原 直樹 |
| | 一九九三組 |
| | 霍間 慶子 |
| | 栗栖 仲次 |
| | 丸山 仁史 |
| | 須貝 洋人 |
| | 一九九六組 |
| | 有澤 未欧 |
| | 一九九七組 |
| | 樽澤 真吾 |
| | 一九九八組 |
| | 小林 範之 |
| | 中澤 愛子 |



学事予告

敬和祭のご案内

地域の皆様方の暖かいご支援により、今年で十二回目を迎える敬和祭の総合テーマは「10011 EVOLUTION」～自ら進んで知性を生かせ～です。

今年の目玉は、次の四つです。

- ①プロアカペラグループ「A.J.E」ライブ
- ②山形黒森歌舞伎・高田馬場十八番斬公演
- ③大谷貴子講演会「生きるって、シアワセ」
- ④本学演劇研究会「リヤンの拳」公演

また、学生団体によるカレー、うどん、そば、パスタ、中国餃子、韓国ビビンバ、焼鳥などのバラエティー豊かなメニューの屋台模擬店、ゼミの教室展示、学生ライブと盛りだくさんです。さらに、新潟万代太鼓が連日花を添えます。さらに、新潟万代太鼓が十分に楽しんで「トク」をする、そんな敬和祭にしたいと考えています。ぜひ、お友達と気軽に遊びに来てください。お待ちしております。

詳しくは、敬和祭実行委員会（〇二五四・二七・二二〇五）にお問い合わせ下さい。

（学生係）

日程と企画内容

月日	時間	行目
11月8日	13:30~15:30	敬和ふれあいバラエティ
	11:00~16:00	屋台模擬店・教室展示
	12:00~13:00	新潟万代太鼓
11月9日	13:30~15:00	山形黒森歌舞伎公演
	13:00~14:30	学生ライブ
	15:00~16:00	AJライブ
	11:00~12:00	大谷貴子さん文化講演会
11月10日	11:00~16:00	屋台模擬店・教室展示
	11:00~17:00	バスケットボール大会
	11:00~15:00	茶会
	11:30~14:00	FMしばた生中継・収録
	11:00~12:30	本学演劇研究会公演
	13:00~17:30	学生ライブ
	17:00~19:00	後夜祭

第二回中学校・高等学校英語科教員のためのリフレッシュ・セミナー

本学では十月二十六日（土）に英語科リフレッシュ・セミナーを開催いたします。これは中学校・高等学校の英語の先生方を対象とした、英語英米文学科主催のワークショップです。昨年、文部科学省の委嘱事業「教職課程における教育内容・方法開発の開発研究事業」の一環として行った公開実践研究会報告会でのワークショップが好評でしたので、「リフレッシュ・セミナー」と名づけ、引き続き行うことになりました。

今回のテーマは「学習者中心の英語授業向け諸活動」ということで、授業の活性化のヒントとなるゲームやグループ・ワークなど、実際の授業に役立つプログラムを用意しております。また、本学で行われている多様な英語プログラムの紹介やネイティブ・スピーカー教員と英語教授法についての意見交換などを通じて、互いの交流を深める機会になればと願っております。

具体的なプログラムとして「語学授業への導入としてのゲーム」、「会話練習に役立つドラマ・テクニク」、「語彙修得のための活動」、「インターネット英語」、「グループでの口頭コミュニケーション活動」、「グループ活動のためのヒント」、「中・高生に知ってほしい辞書を読む楽しみ」などの他、公開授業も予定しています。講師陣は本学のネイティブ・スピーカーを中心とした英語教員のほか、本学非常勤講師の古川登美子先生も加わっております。どうぞお楽しみに。

（松崎）

学事予告

- ◆十月◆
 - 二十六日 英語科リフレッシュ・セミナー
- ◆十一月◆
 - 一日 企業との就職懇談会
 - 八日 ふれあいバラエティ・敬和祭
 - 二十日 就職内定者の体験発表会
 - 二十三日 推薦入試
- ◆十二月◆
 - 十三日 クリスマス行事
 - 二十一日 大学・高校合同研修会
 - 二十二日 冬期休暇（～一月五日）

オープン・カレッジのご案内

新発田市		
10月16・23・30日	「比べて見ようー世界の民話と童話」	ジョイ・ウィリアムズ 助教授
10月22・29日	「仏教とキリスト教の対話」	延原時行 教授
聖籠町		
10月16・23・30日	「新潟が生んだ作家たち」	若月忠信 教授
新潟市「地球時代の良寛」		
10月21日	「良寛の短歌」	Sanford Goldstein 教授
10月28日	「良寛とその裏面史」	荒井鏡 人文社会科学研究所客員研究員
11月11日	「良寛と地球憲章」	延原時行 教授
11月18日	「21世紀における良寛の意義」	松本市壽 全国良寛会常任理事
三条市「ジェンダー論」		
10月14日	「ジェンダーの視点で見たマリア像」	山田耕太 教授
10月21日	「ジェンダーで読む近代日本」	加納実紀代 教授
10月28日	「グリム童話におけるジェンダー」	桑原ヒサ子 教授

キャンパス日誌

7月

- 2日 新発田市オープン・カレッジ⑥
講師 永野茂洋 教授
「パレスチナ問題とは何か」
聖籠町オープン・カレッジ2
『新潟が生んだ作家たち』①/2
講師 若月忠信 教授「坂口安吾、會津ハー」
- 3日 敬和ボランティア・デイ
豊栄市オープン・カレッジ③
講師 杉村使乃 専任講師
「夫婦・家庭のコミュニケーション」
- 5日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑪
説教 辻阪信嗣 日本基督教団高田教会牧師
「気づいてください、あなたの欠点 そこが長所」
(写真)
- 9日 新発田市オープン・カレッジ⑦
講師 松本耿郎 英知大学大学院教授
「イスラームと現代社会」
聖籠町オープン・カレッジ2 ②/2
講師 若月忠信 教授
「日本のゴッホー山下清の新潟」
- 10日 教授会
豊栄市オープン・カレッジ④
講師 柴沼晶子 教授
「国際化時代の教育における総合的学習」
- 12日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑫
説教 北垣宗治 学長
「身を捨ててこそ 浮かむ瀬はあれ」
講演 小林毅 (社)基督教児童福祉会国際精神里親運動部部长
「幸せの種」
- 16日 補講日(～19日)
- 17日 教授会
豊栄市オープン・カレッジ⑤
講師 神田より子 教授
「おんなのくらし西と東一韓国と東北日本をくらべて」
- 20日 オープン・キャンパス①
(写真)
- 22日 ノースウエスタン大学
夏期短期留学(3名) 出発(～8月23日)
- 23日 前期末試験(～8月2日)



- 24日 豊栄市オープン・カレッジ⑥
講師 北垣宗治 学長
「親子のコミュニケーション」
- 25日 理事会
- 31日 新潟東高校(43名) 来学

8月

- 1日 カリフォルニア州立大学サンバナディーノ校
夏期短期留学(3名) 出発(～9月8日)
ワシントン外国語アカデミー
夏期短期留学(1名) 出発(～9月8日)
ワシントン外国語アカデミー
長期留学(1名) 出発(～12月22日)
- 4日 夏期休暇(～9月24日)
- 5日 前期集中講義(～10日)
- 23日 職員研修会(～24日)
- 27日 教育実習事前指導研修(～29日)
新発田まつり民謡流し参加
(教職員21名、学生27名)
(写真)



9月

- 12日 キリスト教学校教育同盟
第46回大学部会研究集会(～9月13日)(写真)
- 18日 教授会
- 20日 前期卒業式
- 20日 第11回学生リトリート(於 下越スポーツハウス)
- 21日 オープン・キャンパス②
学内合同企業説明会②
- 25日 履修指導日
- 26日 後期講義開始
後期履修登録(～10月2日)
- 27日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑬
説教 北垣宗治 学長
「摂理についての誤解」
- 28日 人文社会科学研究所主催シンポジウム
パネリスト 松本耿郎 英知大学大学院教授、
遠藤晴男 中東研究家、延原時行 教授、
永野茂洋 教授、松本ますみ 助教授、
前嶋和弘 専任講師
司会 宇田川潔 事務局長
「変動する世界とイスラーム」
- 30日 新潟市オープン・カレッジ
「地球時代の良寛」①
講師 谷川敏朗 良寛研究家
「良寛さまの書と逸話」



